

はんYA! かんYA!

20年ぶりに日本で開催中の大阪・関西万博。
日本で開催された万博についてご紹介します！



さまざまな国の文化や
最新技術が体験できるよ！

	名称	略称・愛称	開催地	開催会期	テーマ
1	日本万国博覧会	大阪万博 EXPO' 70	大阪	1970年3月15日～ 1970年9月13日	「人類の進歩と調和」
2	沖縄国際海洋博覧会	沖縄海洋博 EXPO' 75	沖縄	1975年7月20日～ 1976年1月18日	「海— その望ましい未来」
3	国際科学技術博覧会	科学万博 つくば万博	茨城	1985年3月17日～ 1985年9月16日	「人間・居住・環境 と科学技術」
4	国際花と緑の博覧会	花の万博 EXPO' 90	大阪	1990年4月1日～ 1990年9月30日	「自然と人間の共生」
5	2005年日本国際博覧会	愛知万博 愛・地球博	愛知	2005年3月25日～ 2005年9月25日	「自然の叡智」
6	2025年日本国際博覧会	大阪・関西万博 EXPO2025	大阪	2025年4月13日～ 2025年10月13日	「いのち輝く未来 社会のデザイン」

トショブラ♥ ～頼りになるヤツ。それが新聞～

図書館では本だけでなく、新聞も読むことができます。インターネットで何でも調べられる時代ですが、長年情報提供の柱として発行されてきた新聞は、やはり段違いに信頼性があるのです！それぞれの館に7～9種類あるので、比べ読みをするのもおもしろいですよ。過去の新聞も市内で分担して保存しているので、古いものが必要な時はスタッフにおたずねください。自分が生まれた日の新聞を探すのもおすすめです☆

発行：甲賀市図書館

水口図書館：63-7400 土山図書館：66-1056

甲賀図書情報館：88-7246 甲南図書交流館：86-1504

信楽図書館：82-0320

ホームページ：<https://lib.city.koka.lg.jp/>

Book guide for Young Adult

甲賀市図書館ヤングアダルト通信



vol.21

2025. Summer-Autumn

Koka City Library

ヤングアダルト（Young Adult）とは、中学生・高校生を中心とした大人と子どもの境目の世代「若い大人」「大人になりつつある人」という意味です。

甲賀市図書館ヤングアダルト通信『ホンマニ！』では、ヤングアダルト世代のあなたに、おすすめの本を紹介します。

★霧の中で出会った二人の、かけがえないひと夏

『グッナイ・ナタリー・クローバー』

須藤アンナ／著 集英社

13歳の少女・ソフィアは霧の町“チェリータウン”に住んでいる。町のモットーは「壊れていないなら直すな」—見て見ぬふりをするということ。閉鎖的な町で、彼女は家を支配する父やバイトに明け暮れる兄と共にひっそりと過ごしていた。

そんなある日、ソフィアはナタリー・クローバーと出会う。夏の間だけ向かいの家に居候するというナタリーはとにかく自由だった。町を歩き回り、屋根に上り、自分だけの地図を作る。そしてその記憶は一週間でリセットされ、月曜日にはまったく新しい“ナタリー・クローバー”に生まれ変わるのだ。ソフィアはそんなナタリーに惹かれ、隠していた心と向き合い始めるが…。

現実に立ち向かう力をもらえる、救いの物語。

おすすめ
この1冊



● “ふつう” ってどういうことですか？
『ぶたのしっぽ』

海緒裕／著 講談社



中学2年の豪太郎は野球部で活躍中。でも彼が本当に好きなのは編みぐるみを作ること。みんなにキモイと思われるのがいやで、ずっと秘密にしている趣味なのです。

そんな彼が、ロングヘアーの男子転校生、不登校のヤングケアラーの二人のクラスメートと関わることで、みんなの考えている“ふつう”について疑問を持ち始めます。

自分の大切なものを守り、ありのままの自分を受け入れるとは？あなたも豪太郎と一緒に考えてみませんか。

● 「鯖街道を宇宙へ！」300人以上の高校生がつないだ夢のバトン
『さばの缶づめ、宇宙へいく』

小坂康之・林公代／著 イースト・プレス



新米教師として福井県の水産高校に赴任した小坂だが、生徒はやる気がなく荒れた様子。地域住民からの視線も冷たく、学校はいずれ潰れるなんて話まで。そんな中、授業で製造するさば缶で宇宙食を目指すことに！

研究を通して地域課題にも目を向け、学ぶ喜びを知り成長していく生徒たち。開発途中で学校存続の危機も訪れる中、13年の歳月をかけて後輩へ夢のバトンをつなげた彼らと、それを見守り続けた大人たちの奮闘に、諦めずに夢に挑む勇気ももらえます。

● 英語っておもしろい
『なんで英語、勉強すんの？』

鳥飼玖美子／著 岩波書店



英語に対して苦手意識を持ったことはありませんか？「どうして難しい英語を勉強しなければいけないの？」「翻訳機を使えばいいんじゃない？」などの言葉を、最近よく耳にします。この本は、そんな疑問や英語が難しい理由を、NHKの英語講座などで活躍されている鳥飼先生が、自身の体験を交えてわかりやすく説明しています。

英語でコミュニケーションの幅をもっと広げて、世界中の人たちと繋がってみませんか。

● ひととは、ひとりでは生きていけない？
『世界は「 」で沈んでいく』

櫻いいよ／著 PHP研究所



中学1年生の凜子は、好んでひとりで過ごしていることを、いじめられていると周囲に誤解され、引っ越すことになった。家族に心配をかけないよう、新しい学校では絶対に友だちを作り、楽しい学校生活を送ると決意をしたが、なかなか馴染めず悩み続ける。

友だち付き合いがうまくいかない凜子は、自分なりの答えを探していく。胸が締め付けられながらも、「自分は自分でいい」と気づき、前向きに歩みだす力をくれる青春小説シリーズ2作目。

● 小さな幸せを発見！
『団地メシ！』

藤野千夜／著 角川春樹事務所



16歳の太田花は学校になじめず、高校を休学中。花の祖母、根来（ねごろ）ゆりは御年70歳。ゆりの夫・咲三郎（さきさぶろう）は既に他界している。年齢差54歳の最強バディが団地メシを食べつくす。花のいところで底知れぬ食欲を持った根来天（てん）とその妹・星（せい）もたまに参加。ある日ゆりは思い切った発言をする。果たしてその行方は…

大きな悩みにとらわれて、普段気付かないような幸せに気付かせてくれる1冊です。

● 夢や目標があるのは素晴らしいこと。でも別になくても大丈夫
『おしごとそうだんセンター』

ヨシタケシンスケ／著 集英社



やりたいことがなくてもいいし、なりたいものがある程度でも変わってもいい。ずっと同じ仕事をしてもいいし、いろんな仕事をしてもいい。大切なのはまず自分を一番大事にすること。地球に不時着した宇宙人が、ちょっと変わった職業相談所で「そもそも仕事とはなにか」について考えていく……。

この本は、様々な「めずらしいおしごと」のイラストと共に、著者が子どもの頃に教えてもらいたかったことが描かれています。「仕事」について考えるときにおすすめの一冊。